

「育成年代への届けたいメッセージ」

活用ガイド

- 1 シンプルなトピックスと映像資料
- 2 指導者と選手の両者を対象とした内容
- 3 端末・場所を選ばず閲覧可能

1 シンプルなトピックスと映像資料

トピック	概要	映像の有無
メッセージ	レポート全体の趣旨について記載	なし
育成パスウェイ	育成パスウェイに関する記載 (男子河村選手、女子東藤選手からのメッセージ)	なし
求められる プレーヤー像	「テクニカルレポート2024」や「Japan's Way」を引用した プレーヤー像に関する記載	✅ あり (映像)
目指すモデルプレー	5つの局面に分けたモデルプレーの映像クリップを掲載	✅ あり (映像)
必要なメンタリティ	日本代表に必要なメンタリティに関連する映像クリップを掲載	✅ あり (映像)

※映像視聴時にはパスワードの入力が求められます。パスワードはTeam JBAに登録されたメールアドレス宛に別途配信されていますのでご確認ください。

⚠️ 活用についての留意事項

- モデルプレーの映像は、「アンダーカテゴリー代表以上」のプレー映像を使用しています。
- この映像クリップのプレーは、**全てのカテゴリーで直ちに推奨するものではありません。**
- 特に**U15以下の指導者の方々**は、この映像を**最終的な完成系のモデル**としてご参照
ご活用ください。

2 指導者と選手の両者を対象とした内容

- ・指導者と選手のそれぞれに向けてメッセージを残しています。
- ・指導者は練習用の映像として活用ができます。
- ・選手は自身のプレーの理解用・練習教材として活用ができます。

3 端末・場所を選ばず閲覧可能

- ・パソコン、タブレット、スマホ等、端末を選ばず最適フレームにて閲覧できます。
- ・体育館でも、電車移動中でも場所を選ばず閲覧できます。

育成年代へ届けたいメッセージ

育成年代へのメッセージ：テクニカルレポートを通して学ぶ、世界基準と成長への道しるべ

パリオリンピックでの熱戦を終え、世界トップレベルの戦略や技術、そして日本代表の挑戦が、テクニカルレポートとして詳しく伝えられました。このレポートは、日本のコーチの皆さん、そして未来の日本代表を目指す若い選手たちにとって、世界を知り、自分たちの成長に繋げるための貴重な資料となります。

JBAユース育成部会では、このレポートとアンダーカテゴリー代表の映像をもとに、『育成年代へ届けたいメッセージ』として新たに育成向けレポートを作成しました。本資料では、対象を育成年代の選手とその世代を指導するコーチに絞り、世界で戦うために目指すべきプレーやマインド、その年代で学ぶべきことや考えることにフォーカスしてまとめています。

この「育成年代へ届けたいメッセージ」では、「日常を世界基準へ」のファーストステップとして「世界のステージにおいて、アンダーカテゴリー代表レベルでは、どんなプレーをしているのか」をまずは知ってもらいたいという目的があります。

そのため、単なる記録集やドリル集ではなく、「日本代表が世界と戦うために必要なプレーの逆算」という視点から、育成世代において「どの世代（カテゴリー）で何ができていれば適切か」についての気づきや「そのスキルをどうやって落とし込むか」を考えるきっかけとなるものであればと願っています。

映像の分類は「トランジション」「クリエイイト」「チャンス」「ブレイク」「フィニッシュ」の5局面で分類しています。今まで皆さんに紹介してきた言葉を使いながら、育成年代の指導者にとって、プレーの理解や認識をより揃えていけるものになればと思っています。さらに、代表選手に必要なメンタリティや振る舞いについても映像を残しています。これは「人間力なくして競技力向上なし」という言葉が表すようにフィジカルやスキルを超えて選手が心に備えておく大切な基盤を共有し再確認することを目指しています。

指導者の皆さんへ

+

選手の皆さんへ

+



クリックすると指導者へのメッセージが出てきます

クリックすると選手へのメッセージが出てきます

今回のテーマが指導者と選手ともに届けたいとしているため、5つのメニューにはそれぞれに「指導者の皆さんへ」「選手の皆さんへ」を作成しています。

アスリート育成パスウェイを考える

パリオリンピックでは男女それぞれ12名の選手が選出されて派遣されています。このうち、男子は88名の候補選手が選出され、30名を超える選手が国際試合に出場しており、その中から12名が選出されています。女子も同様に52名の候補選手から12名が選出されており、男女とも最終ロスター12名に残るプロセスは大変厳しいものです。これは代表選手の選出には多くの選手が関わり全ての選手の力の結晶が我々の日本代表が存在することを物語っています。

現在日本代表選手として活躍する選手たちの年齢構成はパリオリンピック代表では、最年長者が比江島選手と吉田選手、最年少者がジェイコブス選手と東藤選手でした。また、パリ2024オリンピックへ出場した男子日本代表選手のうちアンダーカテゴリー代表選手経験者は8名、女子日本代表では9名でした。

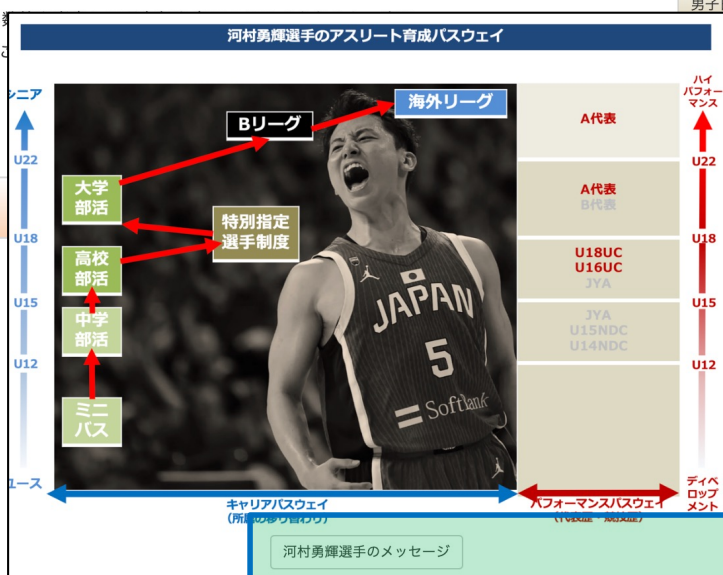
アスリート育成パスウェイという考えから、選手の所属の移り変わりで道を辿ったものを「キャリアパスウェイ」として示し、代表歴等のパフォーマンスをたどったものを「パフォーマンスパスウェイ」として次に示しています。

これは、現在選ばれている選手について、時間を遡って整理しているものですが、現時点の育成年代の選手を見る際には現在から未来を見据えていく必要があります。育成年代の選手の指導に関わるということは、アスリート育成パスウェイを考えるということであり、責任を持って選手の将来像を考えていくことになります。目の前の勝利は尊いもので選手にとって大切な経験・機会となりますが、長い時間軸で選手の成長を考えていくことが育成年代には不可欠です。

コーチが選手を指導する際、年代や経験年数などのステージへ進めていくべきかを考えることが理解し、実践していくことが大切です。

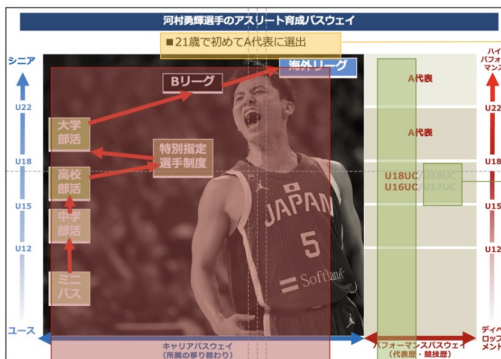
指導者の皆さんへ

河村勇輝選手からのメッセージ



河村勇輝選手のメッセージ

パリ2024オリンピック日本代表選手の育成年代からの現在までの道筋が示されています



A代表初選出の年齢が記載されています。

グレーで示してある箇所は選出されなかったことを示しています。

クリックすると両選手からのメッセージ出てきます

それぞれの年代でどのステージでプレーしてきたのかを示しています。

アンダーカテゴリー代表、A代表の代表歴を示しています。A代表初選出年齢は上部に記載があります。

パリ2024オリンピック出場 男子日本代表選手 育成パスウェイ

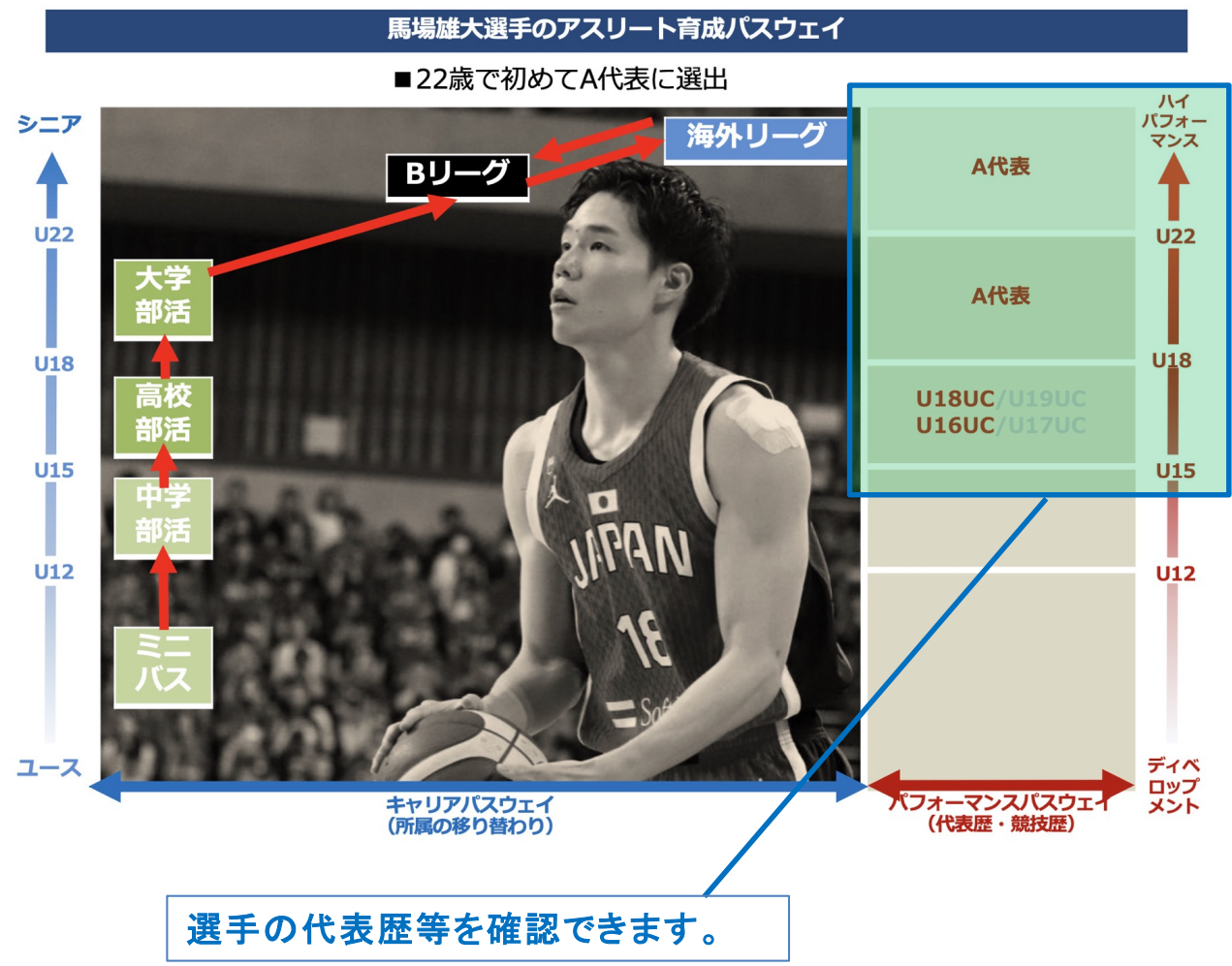
パリ2024オリンピック出場 女子日本代表選手 育成パスウェイ



東藤なな選手のメッセージ

パリ2024オリンピック出場選手 育成パスウェイ

男子日本代表



目指すモデルプレーを見る

今回育成年代へ届けたいメッセージの中ではアンダーカテゴリー代表の映像を中心に（A代表や他国代表クリップも含む）モデルプレー映像を作成しています。映像は、「トランジション」「クリエイト」「チャンス」「ブレイク」「フィニッシュ」の5局面に分類しています。

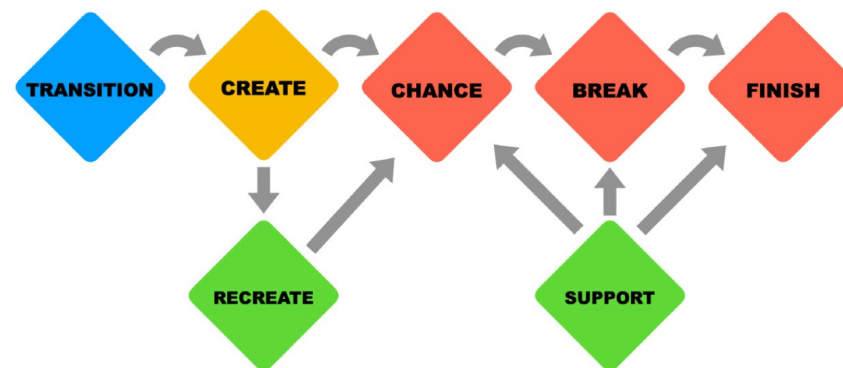
まずは、その局面での実際のプレーを見て下さい。映像ボタンをクリックすると連続してその局面の映像クリップが流れます。連続して同じ局面の類似したプレー映像が流れますので視覚的にプレーを捉えることにチャレンジしてみてください。

映像クリップ内には説明が示され、一番下にタイトルが示されています。視覚的にプレーを捉えることとその映像内で何が起きているのかをリンクさせながらプレーを理解に役立てて下さい。

今回の「目指すモデルプレー」はU16ナショナルチーム以上の年代の映像クリップを使用しています。これは、言い換えると16歳を超える頃には出来るようになって欲しいプレー映像集ということになります。

そのため、全てのプレーをU15以下で目指すことは推奨しません。あくまでも完成系を見ていることを認識して選手の体格、成熟度を十分考慮した、学びの順番や戦術的負荷のコントロールをして日々の練習にご活用下さい。

どの端末からもアクセス可能です。DC活動中に映像を見せながらプレーを学ぶ環境を増やしていきましょう。



1. トランジション（キャストイング）：走りながら配役する局面
2. クリエイト：チャンスを作る局面（リクリエイト）
3. チャンス：オープン（ノーマーク）、カウンター（クローズアウト）、ミスマッチができた局面
4. ブレイク：ヘルプやローテーションを打開しようとしている局面
5. フィニッシュ：シュートを打とうとしている局面

各局面は常に存在している。U12であっても、代表チームであっても。

オフENSEのモデルプレーを見る

- 【TRANSITION】
ボールを運ぶ局面
- 【CREATE】
チャンスを作る局面
- 【CHANCE】
期待値が高いシュートにつながる局面
- 【BREAK】
ディフェンスが壊れた局面
ディフェンスを壊し続ける局面
- 【FINISH】
選択的にシュートする局面

ディフェンスのモデルプレーを見る

- 【TRANSITION】
ボールを運ぶ局面を作させない
- 【CREATE】
チャンスを作る局面を壊す
- 【CHANCE】
期待値が高いシュートにつながる局面を壊す
- 【BREAK】
ディフェンスを壊されない対応
- 【FINISH】
ブロックショットとリバウンド

局面別の説明と分けられた映像クリップが出てきますクリックすると映像が視聴できます。

日本代表に必要なメンタリティとは



国の代表として、その胸に日の丸を背負うこと。数多の競技者の中から選ばれた者のみに許される、誇りであり、同時に重責でもあります。

特別な存在である日本代表

そこで戦う選手・コーチはどんなメンタリティを持っているのか、コーチの言葉、選手の声、試合での振る舞いから見てくるものがあります。

ここでは、所属チームで見せる輝きとは、また別の光が求められます。

代表チームとは、個人の能力を証明する場ではありません。

この場所では、所属クラブでの序列やプレー時間は意味をなしません。

与えられた役割を全うし、例えば短いプレータイムであっても、最高のパフォーマンスを、チームの勝利のために捧げられるかを問われる場所です。

だからこそ、そこに立つ選手は一瞬たりとも勝利への思考を止めません。

常に最高のインテンシティを維持し、苦しい時には仲間を鼓舞し、倒れた仲間には誰よりも早く手をさしのべます。そして、逆境においても顔を上げ、決してヘッドダウンはしません。日本を代表するというプライドが、いかなる状況でも下を向くことを許さないのです。

スキルが練習によって磨かれ、豊かな経験がアスリートを強くしていく。

それは紛れもない事実です。

しかし、その技や強さが「競技力」という美しい花だとすれば、その花を支え、たくましく育むためには、見えない根と土壌が不可欠です。

それが「人間力」という名の土壌に他なりません。

どんなに美しい花も、土壌が痩せていては大事な局面で踏ん張りがきかず、厳しい風雨に耐えることはできません。仲間と切磋琢磨できる「リスペクト」の心。

自分一人の力ではないと知る「感謝」の気持ち。そして、うまくいかない時こそ自分を見つめる「謙虚さ。」こうした養分が深く根を張ってこそ、アスリートという大輪の花は、人々を魅了するのです。

「人間力なくして競技力向上なし」

それは、一流の競技者である前に、豊かな人間であることの大切さを教えてくれる、指導者も選手も、その胸に刻むべき言葉です。

[▶ 動画を見る](#)

映像67_その他_ハドルを自発的に組む

[▶ 動画を見る](#)

ミーティング映像やプレー以外の映像を視聴できます